

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200637		
法人名	株式会社 こふの希		
事業所名	こふの希		
所在地	富山県高岡市伏木矢田上町201-10		
自己評価作成日	2016. 12. 2	評価結果市町村受理日	2017. 2. 9

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/16/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=1690200637-00&PrefCd=16&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成28年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設に閉じ込める介護ではなく、出来るだけ外出していただきたいという思いで職員一同ケアを行っている。戸出の七夕祭りや伏木の花火大会、新湊大橋までドライブなど多くの外出レクリエーションを行っている。その際に、屋台での買い物や遊戯等を体験して、事業所の理念である「笑って共に楽しく生きる」に近づくよう支援している。私たち職員と利用者様は家族の一員として、共に楽しく生活を送りたいと心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

皆が笑顔になって暮らせる事業所を目指し、周辺の古府公民館の文化祭への参加や古府小学校の子供たちの訪問、幼稚園の運動会の見学、地藏祭りへの参加、地元商店での買物などで地域の人達との交流を深めたり、戸出の七夕祭りでの買物や伏木花火大会の見物などで楽しんでいる。また、利用者に笑顔のない時には、ゆっくりと若い頃の勤めの話や昔の世間話を聞いたり、お茶の時間に指先を動かす運動や簡単な計算を取り入れるなど気分転換を図り、利用者も職員も共に笑って暮らせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

こふの希

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域行事に参加、見学の機会があれば積極的に参加している。また、地域に溶け込んだ施設になるよう心掛けている。	理念は、毎朝のミーティングで確認され、職員間で共有されている。理念にある「笑顔」については、日々のケアの中でも笑い声が聞かれ、理念に基づく支援の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や幼稚園の運動会を見学したり、ボランティアに来ていただいたりしている。また、公民館の行事に参加させていただいている。	近所の人がお茶を飲みに訪ねて来たり、古府公民館の文化祭に参加し、踊りや民謡を生き生きとした笑顔で楽しんでいる。小学生が学校の帰りに立ち寄り、利用者と話し合うなど、地域の人達との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校のボランティア活動の場として当施設を利用させていただいている。地域の方へ、認知症の人の理解についての支援方法については発信できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、施設運営が向上するように、地域に溶け込んだ施設になるように意見交換を行っている。	自治会長、公民館長、民生委員、家族代表等が参加し2か月に1回開催している。行事案内などにより利用者の現状等を中心に報告し、参加者から意見をもらい、事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者様と密に連絡を取り、よりよいケアができるように協力関係を築いている。	市担当者に事業所の利用状況を伝えたり、認知症に関する相談や利用者を支える支援のあり方について意見交換をし、協力関係を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。フロア内、居室など施錠せず利用者の行動範囲を制限しないよう心掛けている。	身体拘束による弊害を職員に周知している。利用者の外出を望んでいる表情を見て取り、職員は一緒に外出し、事業所の周辺を散歩し満足すると表情が豊かになり笑顔が見られるなど、抑圧感のない自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がお互いに注意を払い、虐待のないよう防止に努めている。利用者家族が利用者に対して虐待がないかも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修を行っているが、これらについてはまだ職員に周知できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、不安や疑問がないよう細かく説明し、理解していただいた上、同意していただき契約の締結等を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に関しては、提案をいただくと、施設をより良くするため、職員一同検討している。検討した結果は、職員に周知し実行している。意見箱が設置されており、意見や要望を家族が気軽に伝えられるようになっている。	家族から、リハビリの要望があり、生活の中に軽体操や散歩を取り入れている。利用者からは、誕生会のケーキのリクエストなどがあり、その都度対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の信頼関係が良好。意見や疑問などは提案しやすい環境である。	職員からの意見は、申し送りノートで全職員に伝えている。また、伏木の花火大会や祭りを楽しむための企画等の提案を取り入れている。職員間の信頼関係を築き、意見などを自由に述べる事ができる雰囲気をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトは、各職員の希望を取り入れローテーションを組んでいる。各自に役割を持ってもらい、やりがいにつなげている。また、各自が目標を持って働けるよう職員のキャリアアップに力を入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりのニーズに合わせて、外部研修を紹介したり、内部研修を行うなど職員の資質向上に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加し、他の事業所との交流の機会を作っている。また、グループ事業所の職員と会う機会もあり、そこでも様々な意見交換ができる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴など十分に聞き取りを行う。本人が困っていることなどニーズを探り、できないことを支援し信頼関係を築いていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に調査を行い、本人や家族からも話を聞き、要望などに耳を傾けケアプランに反映している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって家族にとってどのサービスが適しているか見極め対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の身体状況に応じて、できることはしていただいたり、お手伝いさせていただいたりしている。必要な調理や洗濯たたみ、掃除などを一緒に行うことで共に生活しているという意識づけにつながる。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望や訴えに対し、真摯に向き合い信頼関係の構築に努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきたなじみの場所や人を把握し、途切れないようにしている。	地元の祭りに出かけ近所の人と話したり、訪ねてくる友人と部屋で話し込み、昔からの関係を大切にしている。また、毎週末に外泊する利用者は、自宅の近隣の人達と談笑するなど、馴染みの関係が継続できる支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席や場所の配慮を行い、ひとりひとりの性格や日々の精神状態などを把握し、見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人や家族から相談されたら可能な範囲で支援するようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの希望や意向を大切に尊重するよう取り組んでいる。	起床後にエプロンを付ける様子などから、役割ごとをお願いし、反応を見たり、本人からの発信を見逃さないようにするなど、日々の暮らしの中での言動に留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握したり、家族から聞いたり、どのような方なのか職員各自が模索し、その方に良いサービスができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意見を尊重する。無理強いせず、その日その日の生活リズムに柔軟に合わせてケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に情報収集を行い、よりよいケアプランができるように心がけている。	入居前のアセスメントと、入居後の本人の様子をよく見極め、利用者の心の声を拾って、本人の生活を支える介護計画を、職員の提案や家族の要望を取り入れて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を細かく個人記録に記入している。特変があれば、職員や上司に申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに合わせて柔軟に支援している。グループ事業所とも連携し取り組むこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様を軸とした地域資源のネットワーク化が重要だと考え、ひとりひとりの地域資源について把握するよう心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重し、希望するかかりつけ医へ受診していただいている。	本人や家族の希望するかかりつけ医としている。入居後は、ふしき病院からの訪問診療に変更する利用者もいる。市の「病院と家族のつながりノート」を活用し、医療面の情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師と介護者の情報の共有に力を入れている。介護職員が疑問に思ったことなど、気軽に相談できるように、申し送りノートやホワイトボードを利用し情報の伝達に努めている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者と常に連絡・相談できるように人間関係構築に努めている。また、利用者の状態の相談もしており、助言をいただくこともある。</p>			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期の対応は今までしてこなかった。いずれは、対応していかなければならないことであり、職員や家族や本人が終末期のケア及び対応の知識を深めていかなければならない。</p>	<p>利用者や家族には、入居時に「看取りに関する考え方」を文書で示している。医療的な処置はできないが、「ここで最期を」という希望があれば、可能な限り対応することとしている。体調に変化があれば、早めに今後の方針を話し合う体制をつくっている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員が救急講習に参加し、対応力が身についたという職員もいる。講習を受けた職員を中心に救急時の対応について周知していかなければならない。</p>			
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急時の避難経路などは職員に周知している。避難訓練も年に2回行い、参加できなかった職員にも周知し危機感を持ってもらっている。</p>	<p>火災を想定しての避難訓練を実施したが、初めての訓練であったこともあり、避難時間などの課題が明らかになり、今後の訓練に活かすこととしている。</p>	<p>今後は、避難訓練への地域住民の参加や、非常時用の必要物品を準備することが期待される。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格や誇りを肯定する声掛けや対応をしている。	その人らしさを尊重し、利用者の言動を否定しない対応に心がけ、共に笑って楽しく過ごせるような雰囲気をつくり、利用者が「大事にされている」と感じられるような支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションを行う時に、要望を聞いたり、飲み物を提供するときでも何が飲みたいか、生活する上で、できる限りの自己判断・自己決定をしていただくように心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れるよう、ひとりひとりのペースを大切に日々の生活を送っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えていただいたり、自分で整えるのは難しい方には職員がお手伝いさせていただいている。介護しやすい服装ではなく、本人に選んでもらいその日の気分の服を着ていただく。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事を作ったり、食器を洗ったりしている。	牛丼にグリーンピースをあしらうなど、目でも楽しめる盛り付けや色合いに留意している。また、本人の能力や意欲を見ながら、野菜を切ってもらうなど、食事が楽しくなるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の管理や水分摂取量のチェックをしている。臨機応変に水分を提供したり、その方に合わせたケアを心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、必ず口腔ケアを行っている。できないところは介助しており、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員が利用者様の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間はオムツの方でも、日中はリハパンを使用しトイレで排泄している。	共に暮らす中で、利用者一人ひとりの排泄の状況を把握している。尿もれ防止のケア方法や夜間の対応など、職員の気づきなどの情報を共有し、排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでいただいたり、ヤクルトを所望される方にはヤクルトを提供している。また、レクリエーションもかねて、風船バレーなどで適度に運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理に入浴することはなく、入浴日は決まっているが、本人の希望に沿った形で入浴してもらうようにしている。	入浴日の予定は決めているが、その時に入りたくなければ、日や時間を改め、タイミングを見ながら入浴に誘っている。リラックスした状態の中で、職員とゆったりとおしゃべりするなど、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や天候によって空調に気をつけている。いつもラジオを聞いて休まれる方にはラジオを聞いて休んでいただく。ひとりひとりの消灯時間に合わせて自由に休んでいただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報は個人用ファイルにも綴っており、職員が周知できるようにになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、花の水やり、食器洗いなど日常的に行ってきた役割を継続できるよう声掛けをしている。利用者様の好みのものを家族から持ってきていただき提供している。食べ物やDVDなど。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、外出していただくように支援している。レクリエーションの一環や散歩といった形で外出している。また、外で歌を歌ったり、室内に閉じこもる一日をなくすように努めている。家族の協力により、定期的に週末外泊されている利用者様もおられる。	戸外に出たい様子が見られれば、散歩や買い物に誘い、天気の良い日には、駐車場に出て、青空の下でみんなで合唱するなど、日常的に戸外で過ごしている。また、事業所前の古府公民館、裏手の小学校の運動会に出かけるなど、地域の人達と交流する機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーなど買い物に出かけた時、利用者様に会計していただく。日常生活でされていたことはしていただきたいという気持ちからである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった場合、利用者様に代わって電話を楽しまれることがある。家族との交流は積極的に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みの設えや季節感を味わっていただくためフロア内の飾りつけを変えている。	温度や湿度に留意し、空気加湿清浄器などを使って、住み良い環境を整えている。また、戸出の七夕祭りに出かけた際の写真などを飾り、和やかな雰囲気をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時に応じて、気の合う方同士を近くに誘導したりしている。独りになりたいときは居室に誘導する。利用者様の気持ちに沿った誘導を心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が希望する家具を持ち込まれることで、生活しやすい環境作りを提供している。	使い慣れた置時計や腕時計など、馴染みの物を置いたり、好きな洋服をハンガーに掛けるなど、居心地よく暮らせる居室となるように配慮している。	入居間もない利用者もおり、当面必要な物は揃っているが、今後は、本人の使い慣れたものや好みのもを増やししながら、居心地の良さをつくっていくことが期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害の方には、トイレと分かるように大きく掲示している。その方に合った生活を支援し、過ごしやすい日常の提供をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 こふの希

作成日 平成29年 2月 4日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	54	居室に本人の使い慣れたものや好みのも のが揃っておらず居心地良く過ごされて いるか課題である。	使い慣れた家具や道具で部屋を設え、今 までの暮らしの継続ができ、居心地の良 い空間になるような居室にしていく。	本人、家族と相談をし その人らしい居 心地の良い居室の設えにしていく。家族 と相談して馴染みの物を持ってきてもら う。	6ヶ月
2	35	避難訓練は、利用者様、消防署の職員と 当事業所の職員のみで訓練を行ってい る。災害時を想定して地域の住民の方 たちとの協力体制が整っていないことが課 題である。	避難訓練を行うときは、地域の住民の方 たちにも協力していただける関係作りを 行っていく。	運営推進会議などで地域住民と交流を図 り、避難訓練を行うときは協力してい ただけるように努める。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

こふの希